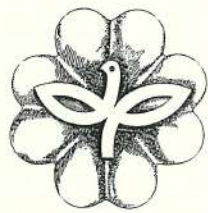


令和4年

長野市民生委員児童委員協議会 第50号



民児協ながの

発行 長野市民生委員児童委員協議会
会長 伊藤篤志
編集 広聴広報委員会

長野市緑町1714-5
長野市社会福祉協議会内
電話 026-225-1234

ウイズコロナ・ポストコロナ時代を 見据え人とのつながりづくりを推進

第1回地区会長会開催

長野市民児協の今年度第1回地区会長会（総会）が、4月26日開催されました。会議には、地区会長と専門部会長が出席し、新年度の活動計画や予算案などを審議しました。はじめに伊藤篤志会長が挨拶に立ち、「新型コロナウイルスによる外出自粛要請等が継続する中、児童虐待、貧困、引きこもり、ヤングケアラー等住民が抱える福祉課題は一層複雑化・多様化しています。こうした状況の中、電話訪問など対面以外で住民との交流を模索し、寄り添い続けていただいている事に感謝いたします。

次に、来賓の荻原健司長野市長から「コロナ禍の中、高齢者や子供たちの見守りをはじめ関係機関等へのつなぎ役としてご活動いただき、地域福祉へのご尽力に感謝いたします。今年度子供総合支援センターを

困りごとを抱える住民へのアプローチとして「重層的支援体制整備事業」が創設されていますが、民生委員や民児協が日頃の活動で得た情報などを行政や関係機関と情報共有することで包括的な支援体制づくりが進むことが期待されています。

今期も残すところ7月余となりました。皆さんの一層のご活躍を期待申し上げます」と述べられました。



第1回地区会長会（ホテルメルパルク NAGANO）

設置し、子育てから教育に至るまで幅広く丁寧にワンストップで相談・支援を行います。地域の皆様が抱える問題に、共に支え合う役割をお願いたします。」と述べられました。

寺田裕明市社会福祉協議会会長は、地域福祉事業、介護サービス事業等今年度方針について述べられました。

続いて議案の審議に移り、「3年度事業報告・決算報告」「4年度事業計画・予算案」「各専門部会等の活動計画」などについて審議を行い、全ての議案が承認され、新年度の活動がスタートしました。

今年度の主な活動・行事予定としては、地区会長会視察研修、全国民生委員児童委員大会（10月名古屋）などが予定されています。

この後、「4年度長野市福祉行政について（保健福祉部・こども未来部）」と「長野市社会福祉協議会の事業計画」について、担当者から説明がありました。

4年度事業重点項目

- 1 引き続きコロナ禍や突然の災害における高齢者、障害者、子育て家庭等の孤立・孤独を無くすとともに、適切な支援につなげるために、行政や地域の福祉団体との協働・連携による取組を推進します。
- 2 With コロナ・ポストコロナ時代を見据え、新しい生活様式に基づいて創意工夫を凝らした活動を模索し、引き続き「人と人のつながりづくり」を推進します。
- 3 子どもたちの「身近なおとな」として、子育てや子どもの健やかな育ちを支える地域づくりを推進します。
- 4 地域における様々な福祉課題を踏まえ、中長期的な視点に基づく取組を着実に実行していくために、全市民的な「活動強化方策」を策定いたします。
- 5 3年に1度の改選にあたり円滑な引継ぎを行うため、資質向上を図るための研修会の実施や、気軽に相談できる環境づくりを推進し、民生委員・児童委員のフォローアップに努めます。

障害者福祉部会

部会長 大池ひろ子

4月15日に、部会総会と「障害があっても地域で安心して暮らしたい」(人との繋がりを大切に)を演題に全体研修会を開催しました。

講師は、精神に障害がある人の当事者の会NPO法人「ポプラの会」会長の山本悦男氏、副会長の大堀尚美氏。お二人は辛い入院体験を語り、様々な人との出会いで癒され元気を貰ったこと。平成16年に「ポプラの会」を立ち上げ、現在会員200名。当事者による「電話や面接による相談・支援」、「地域活動支援センター」の運営、障害理解の普及啓発など多彩な活動の紹介。

主任児童委員部会

部会長 石田三千夫

令和3年度は前年に引き続き、コロナ禍で思うような活動が出来ない1年でした。感染状況の落ち着きを予想し、4年度総会を一か月繰上げ3月開催とする計画でしたが、第六波による再拡大で多数の委員さん集合によるリスク回避のため、役員会で総会に諮る事項を決議しました。このため、4年度事業計画については、12月の一斉改選を控え、何とんでも委員全員が集まる機会を創ることを最優先とし、最小限の事項を掲げた計画としました。そのため北部保健センターでの「ふたご・みつこ広場」への協力

そして精神疾患は誰もがかかりうる病気であり、早期発見早期治療が大事であること。地域に一人でも相談できる人がいると暮らしやすい。「自分たちで何か役立つことがあれば言ってみよう」との言葉を頂くなど、「繋げる」ことを大事に活動する民生児童委員として多くの気付き、

学びのある研修会となりました。今後の部会活動は、障害者施設の視察研修を計画しています。



研修会での学び

専門部会 令和4年度活動計画

も感染状況が改善された際に参加としました。(感染レベルが五以上の場合は不参加)

また市こども未来部各課・各所との連携を更に深め、子育て支援活動への協力体制づくりに努めたいと思っております。令和になってからは部会だけでなく、各ブロックでの活動も制約を受けています。主任児童委員としての活動が思い通りできる日々を速く迎えたいと願っています。



児童の見守り活動

高齢者福祉部会

部会長 岩下 秀雄

今期3年間は豪雨災害とコロナ禍のため私達の活動が委縮し、多くの活動が不十分なまま終わってしまいそう心配しています。

今年度は残り半年間と僅かな期間ですが「コロナ禍を克服し地域での支え合い活動」を中心に、コロナ禍以前の活発な委員の信頼関係と連帯を取り戻して、コロナ禍終息後における来期の新しい体制づくりを進めなければならぬと思っています。

総会は4月13日に全員の出席により、前年及び本年の事業計画・ブロック

ク別研修計画等を審議承認。

その中で視察研修や情報交換会等に努力してほしい旨要望が出された。総会後の全体研修会では、市域包括ケア推進課の宮入綾子係長による「コロナ禍のフレイル予防」について講義を学びました。

今年の事業実施にはコロナの制約も予想される中、部会員のご理解ご協力により乗り切りたいと思います。



総会で事業計画等審議

児童母子(父子)福祉部会

部会長 井原聖

4月19日、総会と「みんなで子ども・若者の未来を応援しよう」子どもの貧困・発達障がい・ニート・引きこもり等への支援」を演題に、全体研修会を開催しました。

講師は県次世代サポート課の井原聖氏、傳田裕美氏。

県の発達障がい者支援施策については、県内10圏域毎に1名の「サポートマネージャー」を配置し、乳幼児期から成人期までの支援の連携体制構築のため、支援者への総合的な助言・支援への橋渡し等を実施。また発達障がい者支

援センターや支援対策協議会を設置し、運営とのこと。

「子どもの貧困・ヤングケアラー」については、平成26年貧困対策法が施行され、また4年度県予算では、家庭養育の支援、教育費等の負担軽減、孤立化の防止が柱です。ヤングケアラーについては実態調査を更に進め、早期発見・把握、伴走型支援(子どもカフェ、フードドライブ等)の推進、教育・福祉関係者の研修会を実施予定。今後の部会活動では情報交換会等を実施しています。



ブロックの活動を打合せ

見守り時に仕込み味噌お届け

長沼地区民児協会長 深瀬 敏一

長沼地区は、千曲川左岸に広がる自然豊かな地域、リンゴ栽培が盛んで地域の特産品となっております。南から大町、穂保、津野、赤沼区

があり、我が民児協は主任児童委員2名を含め8名で活動しております。

令和元年の台風19号災害時、民生児童委員の改選時でしたが、次期候補者1名が辞退となり、1年間は1名減での活動となりました。

長沼地区は昔から水害に悩まされております。津野の妙笑寺境内に設置してある「千曲川洪水水位標」では深

手前みそですが 私たちが仕込んだ、おいしいみそです。



長沼地区民生児童委員協議会

した避難行動要支援者ノートを、各区毎に情報を共有し常会長、区役員により避難呼びかけ、移動手段の確保等をお願いし、その確認作業をしています。

台風19号災害から2年半以上を過ぎた現在、復興住宅に入居した方、新築住宅、あるいはリフォームされた方に生活を始めた方、今でも

仮設住宅やみなし住宅で暮らさざるを得ない被災者もおられます。一方では若い世代ほど地区を離れ水害の恐れがない他地区での生活を始めた方も多く見受けられます。

きた「戊の満水」3.38mに次ぐ過去2番目の大洪水となりました。昭和58年6月29日台風10号による災害では、飯山で千曲川が決壊し大被害、松代温泉団地水没被害等がありました。長沼地区では堤防の縁まで水が迫り、越水寸前で免れました。地区ではこれを機会に毎年6月29日防災訓練実施日に決め、今年で39回目を数えます。訓練では毎年更新

我が民児協は、毎月の定例会を実施していますが、他の行事はほとんど中止となる中、小川醸造場のご協力をお願いし、昨年5月中旬に我が民児協仲間味噌を仕込み、天然醸造で暮れまで熟成させた完成品を「手前みそ」と名付け、独居高齢者見守り時にお届けしながら、身近な相談相手として活動しています。

発信・わが民児協

コロナ禍での活動を振り返って

更北民児協会長 原 丈夫

更北地区は、昭和30年の更北村発足当時はのどかな田園地域でしたが、長野冬季オリンピックを契機として一躍脚光を浴び、交通網が整備され近年は急激な都市化が進んでいます。地区内の総人口は約3万4千人、総世帯数は約1万4千世帯です。

民生児童委員は56名(うち3名が主任児童委員)が活動しています。

コロナ禍で当民児協も不完全燃焼の活動が続いていますが、この2年間を振り返り、新規事業への取り組みと長期継続している活動をご紹介します。

1 フードドライブの実施

フードドライブについては、令和2年12月に更北民児協の新たな事業として行いました。役員会で「コロナで経済的に深刻な家庭が増えていくため、フードドライブをやらう」との提案があり実施することにしました。全委員にピラで「家庭で余っている食品を提供したい」と呼び掛けました。初の試みで物品が集まるか心配でしたが、袋入りの米、ラー



フードドライブ活動の実施

メン、缶詰、菓子など計230点集まりました。早速、学習支援・食事提供・遊びなどを通して、子どもの居場所づくりに取り組んでいる三本柳地区のNPO法人「にっこりひろば」へ届けました。

2 花プレゼント活動への協力

花プレゼント活動は18年前から継続して活動しています。更北中学生がクラブ活動で育てた花を生徒と民生児童委員が、一緒に独居高齢者宅を訪問し、鉢花を手渡しする世代間交流活動です。コロナ禍で実施が危ぶまれましたが、学校との綿密な打ち合わせを行い、令和3年11月に第19

回目を実施することができました。後日、鉢花を手渡した高齢者宅を訪問した際「花がきれいに咲いているよ」と笑顔で話してくれた姿が印象的でした。



単位民児協の交換研究活動紹介

長野市民児協では、地区民児協相互の研鑽を深めるための交換研究に助成金を交付して促進を図っています。令和3年度に各地区で実施された交換研究活動は延べ8回（実施地区22地区）です。なお民児協なごの48号では2回の交換研究活動を紹介しています。

【五地区交換研修会】

○参加民児協 浅川・戸隠・鬼無里・芋井・小田切
参加者35人

○開催月日 10月6日

○会場 青少年鍛錬センター

○研修内容 講義「人生会議」を始めてみませんか？もしものときの医療・ケアの心づもり

講師 地域包括ケア推進課丸山智恵美氏

講義では、自分自身のことを自分で決められなくなった時に備えて、希望や思いを整理し、家族や大切な人、医師や介護ケアに携わる人など話し合い、共有することの重要性を強調されました。

○寸劇 特殊詐欺にご用心 湯山若妻劇団により披露されました。

【東北5地区合同研修会】

○参加民児協 古里・柳原・朝陽・長沼・豊野

参加者97人

○開催月日 10月8日

○会場 柳原総合市民センター

東部文化ホール

○研修内容 「災害に備える民生委員・児童委員活動」～台風19号災害に学ぶ～

講師 市社協小野貴規氏外4人の発表 発表では、被災地における支援活動、ささえあいセンターの活動紹介等がありました。

○アトラクション

中川真由美氏によるピアノ演奏

【若槻・浅川地区交流研修会】

○参加民児協 若槻・浅川

○開催月日 7月9日

参加者49人

○会場 浅川公民館

○研修内容 講演「身近な被災に学ぶ」

講師 Hope Apple 穂保 被災者支援チーム代表 太田秋夫氏

被災と災害支援の実際について説明がありました。

○開催月日 10月8日

参加者50人

○会場 浅川公民館

○研修内容 講演「過去から預かり未来に託す」

講師 堀井正子氏

講演では、善光寺との出会いを通じ深い縁を結ばれた高倉健とおばあさまのお話をお聞きすることができました。

【第3ブロック合同研修会】

○参加民児協 芹田・古牧・大豆島・朝陽

参加者57人

○開催月日 10月22日

○会場 大豆島総合市民センター

○研修内容 講演「音楽が人生」～心に響くバイオリン演奏とトーク～

講師 Chuy2 牧美花氏

【犀南地区合同会議】

○参加民児協 篠ノ井・松代・川中島・更北・信更・大岡

参加者90人

○開催月日 11月26日

○会場 更北公民館



パラスポーツを身近に

○研修内容 講演「障がいのある方も一諸にスポーツ、運動をしよう」

講師 県障がい者福祉センター

太田澄人氏

講演では、スポーツ基本法の掲げる理念や障がい者が自主的・積極的にスポーツに参加できる共生社会の実現に向けて取り組む重要性を指摘されました。

またパラスポーツの特徴の紹介、サンアップルのコンセプト、これからの地域スポーツの課題等幅広いお話を頂きました。

○アトラクション

スコップ三味線外 綱島・星の会

編集後記

花々が咲き誇る時、善光寺御開帳、諏訪大社御柱祭が行われていて、人混みによるコロナ感染が心配。今も新規感染者は増えていて「感染再拡大の長期化」の見方もあり、多くの方は「感染不安」を感じていることでしょう。

コロナ禍、高齢者等の見守りにおいても、活動の範囲が制限される等で、ご苦労されていることと思います。先の研修で「地域の灯台」でいてほしいと教えて頂きました。あの光の元に行けば温かい笑顔や安心感を得られる存在であったかどうか自問しています。

(盛田)